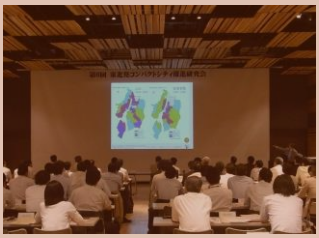
第6回東北発コンパクトシティ推進研究会

開　催　レ　ポ　ー　ト



■研究会の目的・経緯

東北地方整備局では、東北の地方都市における「コンパクトシティ」の考え方や、その実践に向けた取組み方法について検討することを目的に、平成16年2月に1回目の「コンパクトシティ研究会」を開催しました。

コンパクトシティ研究会は、主に学識経験者等による講演会形式で行われ、東北の地方自治体（県、仙台市及び人口10万人以上の市町村）担当者の参加を得て、平成19年2月までの間、合計6回開催されました。

平成19年度からは、名称を「コンパクトシティ推進研究会」に変更し、即時的な研究課題への参加者間のディスカッションを行うことに重きを置いた実施体制とするとともに、参加対象を人口3万人以上の市町村にまで拡大しました。

さらに、平成21年8月に大臣決定された「東北圏広域地方計画」では、研究会で検討してきた東北圏のまちづくりを「東北発コンパクトシティ」とし、広域連携プロジェクトとして、推進していくことが記載されたことから、平成22年度からは、名称を「東北発コンパクトシティ推進研究会」に改め、新潟県を含めた東北圏（7県）を対象に開催しています。

■第6回東北発コンパクトシティ推進研究会開催概要

東北発コンパクトシティの実現にあたっては、東北圏の特徴でもある、郊外に広がる豊かな自然や農山漁村地域の固有の行事や祭り、グリーンツーリズムなどによる都市住民との交流や、市街地の無秩序な拡散を抑制し、魅力的で利便性の高いまちづくりが求められることから、第6回目となる今回は、「①都市と農山漁村地域の連携による共生」および「②街なか都市機能の強化」をテーマに、中心市街地の活性化に向けた再開発を先進的に取り組んでいる新潟県長岡市において、10月3日、4日の2日間の日程で開催しました。

・「都市と農山漁村地域の連携による共生」については、都市住民と農山漁村住民が有機的な連携をしていくことが求められており、都市と農山漁村地域を繋ぐ（地域内も含め）公共交通体制の構築が課題となっています。

・「街なか都市機能の強化」については、公的施設を単に集約するのではなく、市民活動等も含め、魅力あるまちづくりによる賑わいの回帰が求められております。

■開催日・場所等

開催日：平成24年10月3日　13：30～17：00
　　平成24年10月4日　　9：00～12：00
会　場：新潟県長岡市　アオーレ長岡　市民交流ホールA
主　催：東北発コンパクトシティ推進研究会（事務局：国土交通省東北地方整備局）
後　援：日本都市計画学会東北支部
出席者：学識経験者および国、県、市町村の都市計画担当者

（学識経験者）	福島大学名誉教授	鈴木　浩　氏
	弘前大学教授	北原　啓司　氏
	長岡技術科学大学副学長	中出　文平　氏
	東北大学大学院准教授	姥浦　道生　氏
	長岡技術科学大学准教授	樋口　秀　氏
	長岡技術科学大学助教	松川　寿也　氏

■開催プログラム・配布資料等

【1日目】

1. 開会
2. あいさつ
3. 出席者紹介
4. 基調講演　「広域合併を果たした長岡市のコンパクトシティ戦略」・・・・・・・・・・・Report1
   （長岡技術科学大学　副学長　中出　文平　氏）
5. 事例紹介　「農村文化伝承の取り組みと都市交流」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Report2
   （滝沢村　経済産業部　農林課）
   「大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2012」・・・・・・・・・・Report3
   （十日町市　建設部　都市計画課）
   「長岡広域市民の「ハレ」の場となる新しい長岡の顔づくり」・・・・・・・Report4
   （長岡市　都市整備部　まちなか整備課）
6. 全体討論
   テーマ
   ①都市と農山漁村地域の連携による共生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Report5
   ②街なか都市機能の強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Report5
7. 閉会

【2日目】

1. 現地視察
   ①アオーレ長岡・・Report6
   ②長岡防災シビックコア地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Report6
   ③フェニックス大手イースト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Report6

Report1 【基調講演】
広域合併を果たした長岡市のコンパクトシティ戦略

長岡技術科学大学　副学長　中出　文平　氏

本研究会の委員であり、「東北圏広域地方計画変更に関する有識者懇談会」の委員も務められている長岡技術科学大学副学長の中出文平氏より、「広域合併を果たした長岡市のコンパクトシティ戦略」と題し、基調講演を頂きました。

講演では、長岡市において、「持続可能な都市」としてのコンパクトシティ(「郊外化による多極分散」から「中心市街地への必要な機能の再集積」への転換)を目指すに至った経緯や、市町村合併や少子高齢化及び新潟県中越地震を踏まえての都市圏再構築の取り組み等についてお話しいただきました。

【PDF】資料1：広域合併を果たした長岡市のコンパクトシティ戦略

Report2 【事例紹介】
農村文化伝承の取り組みと都市交流

滝沢村　経済産業部　農林課

テーマ①「都市と農山漁村地域の連携による共生」にかかる取り組みとして、岩手県滝沢村から、「農村文化伝承の取り組みと都市交流」と題し、事例紹介を頂きました。

ここでは、小中学生対象の農業体験による若手の育成や、若者の定住を目指した婚活登山などの取り組み、「南部曲がり家」や「チャグチャグ馬コ」などの伝統文化体験による来村者との交流など、四季を通じて地域の魅力を発信して都市と交流している取り組み等について紹介していただきました。

【PDF】資料2：農村文化伝承の取り組みと都市交流

Report3 【事例紹介】
大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2012

十日町市　建設部　都市計画課

テーマ①「都市と農山漁村地域の連携による共生」にかかる取り組みとして、新潟県十日町市から、「大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2012」と題し、事例紹介を頂きました。

ここでは、「里山や自然といった地域資源・文化等を、アートによって発信し、地域活性化を図る」こと目的に、3年に1度開催される「大地の芸術祭」の取り組みとして、過疎化や新潟県中越地震の影響により生じた空家・廃校の活用や、地域の方々が作品を作る協働者として関わっていることによる作家との交流等について紹介していただきました。

【PDF】資料3：大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2012

Report4 【事例紹介】
長岡広域市民の「ハレ」の場となる新しい長岡の顔づくり

長岡市　都市整備部　まちなか整備課長　川津　充弘　氏

テーマ②「街なか都市機能の強化」にかかる取り組みとして、新潟県長岡市から、「長岡広域市民の「ハレ」の場となる新しい長岡の顔づくり」と題し、事例紹介を頂きました。

ここでは、長岡市における中心市街地活性化に向けた取り組みとして、まちなかの賑わいを創出するために市役所機能をあえて分散配置するついで効果の考え方や、防災拠点、交流拠点、行政サービス拠点を兼ね備えたシビックコア地区について紹介していただきました。

【PDF】資料4：長岡広域市民の「ハレ」の場となる新しい長岡の顔づくり

Report5【全体討論】

司会進行　弘前大学　教授　北原　啓司　氏

基調講演および事例紹介の内容をもとに、今回のテーマである「都市と農山漁村地域の連携による共生」および「街なか都市機能の強化」について、学識経験者を交え、討論しました。

テーマ①　：　都市と農山漁村地域の連携による共生
テーマ②　：　街なか都市機能の強化

討論で出された主な意見

◆ 長岡市においては、市役所機能をあえて分散配置しており、これまでの役所の在り方からすると、非常に珍しいやり方である。公共のスペースをある程度分散配置して、そこでの人の行き来をもまちなかの賑わいの素材、材料にするということは、すごく重要だと思うし、エリアマネジメントの考え方がかなり議論されていると思う。

◆ 地方都市は周辺に広大な農村を抱えている。昭和40年代までは、農村の人が中心市街地で農機具等を買ったり、生鮮野菜を売ったりといった有機的な関係があったが、今は完全に無くなってしまっている。中心市街地と農村との有機的な連携がなければ、農村にとってまちなかが元気になることが自分達も元気になるという仕掛けにならない。

◆ 農村においては、後継者不足や農地の遊休化等の課題を抱えており、土地の有効活用のために中心市街地にある公共施設が農村に来て欲しいと考えている姿もある。これまでは、都市側の圧力によって市街地拡大が進んできたが、農村側から都市的な機能を引っ張り込む要因も生まれていると思う。都市と農村が共生するためにはどうしたら良いか、崩れてしまった都市と農村の有機的な関係をこれからどうしていくかという課題にぶつかっていると思う。

◆ まちなかに役所を移転させた事例はいくつかあるが、車で役所へ行き用事を済ませたら帰るといったような、「点」として機能をしているだけで、面的な意味合い（まちなかの維持機能）を創出するようになっていないところが非常に多いように思われる。単純に官が公共に投資すれば何とかなるということではなく、民間とハード面、ソフト面での連携をどうするかというところまで考えないと、投資の効果は出てこないように思われる。

◆ 中心市街地と農村の連携として、公共交通をどう担保するかが重要な課題であり、どこの地方都市でも苦労している課題だと思う。

◆ 中心市街地は、税収という意味でいうと、かなり大きなウエイトを占めているエリアだと思う。郊外に大型店や住宅団地を造ると明らかにそこから税収が増え、見た目上は税収が増えたように見えるが、逆に中心市街地や既成市街地では変化がないため税収が減っていき、都市全体で見るとあまり税収は増えていない。今、中心市街地がどんどん衰退して、郊外の税収の上昇も減ってきているので、各自治体の税収はこれから10年で非常に激減すると思う。そういう意味で、税収がきちんと見込める中心市街地に再投資するというのは説得力があるし、税収と都市計画、中心市街地の活性化を含めて都市政策を考えると良いと思う。

◆ 税収の拡大に期待を込めながら、市街地の見直し、拡大をしてきたが、それにかかる公共投資、維持管理費等の費用を賄えるかどうかをきちんと冷静に分析する必要がある。
◆ 長岡においてはNPO等の市民活動が盛んで、子どもたちを含めたまちづくり教室や歩行者天国、バル街などの取り組みをしている。それらの取り組みを通して、街に来て楽しむという活動が認知されつつあり、市民の活動を中心市街地に持ってくることで、ライフスタイルというものを変えていけるような動きや、基盤が出来つつあるので、各都市においても、面白い空間をつくり、面白い活動を中心市街地で継続的に行っていくことがこれからは重要だと思う。

◆ 昔農村だった都市は、中心の都市への公共交通はできているが、その地域内の活性化のための公共交通は非常に弱いように思う。東北発コンパクトシティとして考えると、地域内の公共交通がきちんと出来ていることと、それをお互いで繋げていくという話をしなくてはいけない。
◆ グリーンツーリズムは、地域の人たちが自分達の活性化のために実施していくことが重要だと思う。
◆ 広域的な調整が重要で、単純に一つの自治体としてではなく、地域として、都市圏としてよりよい都市計画を考える必要がある。
◆ 中心市街地にどんどん機能が集まっていったときに、郊外がどうなるのかという非常に大きな話もある。

◆ グリーンツーリズムについて、日本における民泊は至れり尽くせりの感があるが、ドイツやオーストリアにおける民泊は、普通の生活をそのまま体験するものである。イベント的なものや、非常に面白いものをみせるのも一つのやり方としてあるが、普通の生活をそのまま体験してもらうのも、都会の人間にとっては単純にそれだけでも面白いと思う。隠された宝物（地域そのものの魅力）はたくさんあると思うので、それを見つけて上手く出していくのが一つポイントだと思う。
◆ 東日本大震災での被災地では、第一次産業をどう復興させるかというシナリオが今全く描けていない。第一次産業を地域産業として再生させるために、コミュニティをどう考えるか、都市と農村がどうやってお互いに支援しあえるのかという、まさに今回のテーマである都市と農村の連携を考えていく必要がある。
◆ 市民のライフスタイルとか、市民の活動というのは、コミュニティを再生させる力が生まれてくるかどうかである。コミュニティの再生の前提、目標にある私たちコミュニティ地域社会における生活の質とか、クオリティオブライフというのがどれくらい議論されてきたのか。もっと本格的に議論される時期にきているのではないか。

◆ 中心市街地の再編成及び農村部における文化の継承等の取り組み、これら二つは全然違うわけではなく、ある種同じものであると思う。中心市街地にしろ農村部にしろ、今突きつけられているのは空間だらけになってしまっているところを、どうマネジメントするかである。活性化のためのきっかけが出来て、持続させていくための人と人とのつながり、仕組みが大事である。

Report4 【現地視察】
アオーレ長岡、長岡防災シビックコア地区　ほか

長岡市

長岡市における中心市街地活性化の取組箇所として、①アリーナ、ナカドマ（屋根付き広場）、市役所が一体となった“市民協働・交流の拠点”となる複合型施設「アオーレ長岡」、②中心市街地における大規模空閑地を活かし、消防本部、市民防災センター、防災公園等を有した防災拠点「長岡防災シビックコア地区」、③長岡震災アーカイブセンターや市役所機能の一部等を有し“学びと交流の拠点”となる再開発ビル「フェニックス大手イースト」を見学しました。

□現地視察　：　アオーレ長岡

JR長岡駅前に位置し、市民協働・交流の拠点となる複合型施設として、平成24年4月1日にオープンした「アオーレ長岡」を視察しました。

アオーレ長岡では、市民の交流の場となるナカドマや市民活動拠点となる市民協働センター及び市役所窓口など、施設内の各機能について説明していただきました。

▲アオーレ長岡

□現地視察　：　長岡防災シビックコア地区

長岡防災シビックコア地区では、長岡市消防本部庁舎内にて、地区全体の概要を説明していただきました。

その後、消防本部庁舎内および、同地区内にある市民防災の拠点機能（平常時：防災学習施設、災害時：災害対応施設）と子育て支援施設を備えた「ながおか市民防災センター」を視察しました。

▲長岡防災シビックコア地区
（ながおか市民防災センター内）

□現地視察　：　フェニックス大手イースト

再開発ビル「フェニックス大手イースト」内の施設として、新潟県中越地震の記録・記憶・教訓の蓄積の場である「長岡震災アーカイブセンターきおくみらい」および、市民の学びと交流の施設として多彩な講座が開催される「まちなかキャンパス長岡」を視察しました。

▲フェニックス大手イースト
（長岡震災アーカイブセンター内）